
創業ストーリー

公認会計士・税理士を目指した理由

<両親>

私の父は佐賀県出身の5人兄弟の長男です。

弟や妹の学費をねん出するため、高校卒業後に関西に移住してそれこそ休みなく働いていた猛烈サラリーマンでした。

私が小さいころの記憶として、休日に父親と遊んだ記憶はほとんどなく、家族のために休みなく働いていました。

お酒が飲めない父でしたが、自ら飲み会を企画しては社内外の仲間と積極的に交流し、社内はもちろん社外の取引先の方からも兄貴分のような存在として慕われていることを母がよく自慢していたことを覚えています。

母は鹿児島県出身で、同じく高校卒業後に関西に移住して父と出会い、猛烈サラリーマンを支える家庭の柱として明るく家庭を切り盛りしてくれました。

私はそんなサラリーマン家庭の3人兄妹の次男として育てられ、仲間と家族を大切にする生き様や堅実さ、愛情いっぱいの温もりを教わりました。

<父の病気>

私が18歳になり大学に入学する前のある日、父が脳卒中で倒れ生活が一変しました。

父は49歳という若さでした。

なんとか一命を取り止めたものの、見通しは悪く結果的に3年間入院しました。

母のあきらめない懸命な看病と父のリハビリもあり、なんとか杖をついて歩けるようにまでなりましたが、右半身麻痺と言語を失い高校卒業から必死に働いた会社を退職せざるを得なくなっていました。大黒柱が無職になってしまいました。そんな状況だったにも関わらず大学を卒業させてもらった両親には感謝しかありません。



公認会計士・税理士を目指した理由

＜公認会計士という職業との出会い＞

両親含め、親戚の中にも経営者や会計士・税理士がいなかった環境でしたので、大学卒業後、当然のようにサラリーマンとなりました。

営業職として2年たったある日、ふと「このまま今の仕事を続けていて、自分が父と同じ大病をしたとして、運よく社会復帰出来てもこの会社でしか通用しない人間だったらヤバイな」と思うようになりました。父の大病の現実が、自分の将来の危機感を現実のもののように感じるようになりました。手に職をつけて、大病があってもどこの社会に行っても通用する人間になりたい。

こういう思いでくすぶっていた時、たまたま本屋さんで知った資格が公認会計士でした。

当時日経新聞を読みこなしたいと本気で思っていた中、「公認会計士とは資本主義経済の門番の役割を担っていて、経済社会に必要不可欠な存在である」と本に書いてあり、「これなら日経新聞を読みこなすどころか、社会のどこでも通用する人間になれる。自分が目指すものはこれしかない！」と直感し、これを目指すことを即決しました。

周囲には心配をかけましたが会社を退職し、受験勉強生活を始めました。一番心配と迷惑をかけたのは母でした。

父が大変な中、やっとの思いで就職させた息子が、よくわからない資格を取ると会社を辞めて実家に戻ってきたのだから当然だと思います。そんな状況だったので2年で合格できなければあきらめると決めて勉強しました。何とか2年で合格できた時の喜んで泣いていた母を今も忘れることが出来ません。

公認会計士試験に合格した年の12月、監査法人に就職しました。



独立した理由

<友との約束>

大手監査法人で平穏な日々を過ごしていたある日、私が人生で一番影響を受けた友人が事故で亡くなりました。

その友人は小学校・中学校の同級生で、プロボクサーとして多くの仲間を魅了しました。友人の影響でボクシングをしていた時期もありましたし、サラリーマン時代や会計士受験時代に試合の応援に行っては俺もやるぞ！とやる気スイッチをいつも押ししてもらっていました。

両親の次に大きな影響を受けた人でした。

世界戦まで経験するくらい強かった友人ですが、ただボクシングが強いだけでなく、男が男にほれるという言葉がピッタリなくらい人としての魅力もすごかった人でした。

受験勉強中、「俺が引退したらおかんとカレーがうまい喫茶店をしたいから、山田が公認会計士になったら助けてな」「俺のおかんのカレーめっちゃうまいねんで！」と励ましを受けながら交わした約束は果たすことが出来ませんでした。

29歳という若さで友人は夢半ばで亡くなりました。

友人との約束は果たすことが出来ませんでした。このことがきっかけで友人のように小さいながらも応援したい夢をサポートして直接喜んでもらえるような仕事がしたい、自分にしか出来ないサポートで夢を持つ人にダイレクトに貢献できるような仕事がしたい、そう思うようになりました。友人との約束も間接的に果たせるのではないかと。

監査法人での仕事は大手企業を相手に自分でなくても代わりにきく仕事でした。独立の思いが強くなり、友人の死の1年後の夏に独立しました。



創業ストーリー（独立から9年を迎えた今）

独立から9年を迎えた今

<真のサポーターになりたい>

独立スタートは顧客0からでした。

徐々にお客さんが増え始めて感じたことは、「この仕事、めっちゃ自分にあってる！自分がやればやるほどお客さんが喜んでくれる、こんな楽しい仕事はない！」でした。

縁があって頂いた仕事に必死で取り組み、ひたすら目の前のことを一生懸命やってきました。

しかしそんな数年が経過したころ、事業が立ちいかなくなり潰れてしまう会社や、自分のもとを離れて別の会計事務所に行ってしまう会社が出てくるようになってきました。

自分は決してサボることなく1つ1つの仕事に全力を注いでいる自負があったのですが、本当にこのままでいいのだろうか、何か間違った方向に進んでしまっていないだろうかと考えるようになりました。

本当に経営者が望んでいる会計事務所サポートとはどんなものなのか？

単なる税金計算だけの会計事務所ではなく、会社が長期的に成長するサポートが会計事務所で作れたとしたら、最高の会計事務所になれるのではないかと？

先進的な会計事務所は何をして喜んでもらっているのか？

立ち止まり、色んなことを考え、調べ、確認しに行きました。

考えて考えて考えた結果、出た答え。

会計事務所は、やり方次第でもっと世の中に役に立つサポートが出来る。

真のサポーターになることで、もっとお客様が喜んでくれて、もっと従業員が生き生きと働くことが出来る会計事務所になりたい。

それを実現させるための手段が「未来会計」と「理念経営」だと確信しました。



創業ストーリー（独立から9年を迎えた今）

独立から9年を迎えた今

＜お客様の未来を創り、スタメンの未来も創る＞

本当にかむしゃらにやってきた数年間でした。

目の前のことを一生懸命やり続ければお客様も喜び、スタメンも大きくなり、みんな幸せになると信じて。

ただそれは経営者としては少しズレていた考え方でした。

経営者は第2象限に一番力を入れ、経営者が決めたことに対して従業員が目の前のそれを一生懸命頑張れば会社が大きくなり、従業員個人も幸せになる。そんな仕組みと戦略を創って実行していくことが経営者の仕事だからです。

その仕組みが自社で実行する理念経営であり、戦略が未来会計と理念経営のお客様への提供であることを確信しました。

スタメンは2019年からガラリと変わります。

念願の吉岡税理士を迎えることが出来ましたので、まずは税務を盤石なものとしつつ、未来会計でお客様の役に立ち、理念経営で自社の健全化と活性化を行っていきます。

みなさんへの期待も大きいです。理念経営に前向きに取り組んでもらいながら、税務盤石化と未来会計への積極参加をお願いします。

2019年は、お客様の役に立ちながら売上と利益を伸ばし、従業員も10人体制とします。

スタメンは真に役に立つ会計事務所となり、**日本中の中小企業を元気にし、100年企業を創ります。**